令和５年度　第１回　「宇都宮市子ども・子育て会議」　議事録

１．日　時　　令和５年５月１１日（木）　午後２時３５分～午後３時３０分

２．場　所　　宇都宮市役所　１４階　１４大会議室

３．議　事　　「(仮称）子どもを守る都市宣言」について

４．出席者（委員：２４名，事務局：１２名，計：３６名）

【委　　員】

清水信子委員，丹羽夕貴委員，青木克介委員，仙波和夫委員，栗田幹晴委員，
田代純子委員，海野仁昭委員，佐々木佳子委員，平手義章委員，永田文子委員，
松本清美委員，木嶋香保利委員，原晃子委員，新村雅司委員，関口浩委員，
倉益章委員，小池惠一郎委員，中野謙作委員，青木章彦委員，河田隆委員，
高橋英樹委員，堀江恵美委員，筧俊夫委員，大音知子委員

【事 務 局】

〔宇都宮市長〕　佐藤市長
〔子ども部〕　高野部長，田邉次長
〔子ども政策課〕西山課長，野澤主幹，近藤課長補佐
若井係長，佐藤総括，大塚主任主事，増山主事，廣村主事
〔子ども支援課〕加藤課長補佐

５．公開・非公開の別　　公開

６．傍聴者数　　１名

発言者	内　容
	１　開会 　会議の公開について決定 ２　議事 　「(仮称) 子どもを守る都市宣言」について
事務局	（事務局説明）
会長	質問・意見等はあるか。
委員	障がい児・者については，分類④個別分野に関するものに含まれるか。 障がい児・者への支援に関して，まだまだ十分な理解が得られていないように感じている。そういった部分をどのように宣言に反映する想定か。 また，アンケートについて，障がい児・者の中には，アンケートに答えられない方やどう答えて良いかわからない方，字が読めない方など，様々な方がいる。そのようなハンデのある方たちからの意見を，どのように反映していくのか。
事務局	１点目について，障がい児・者については，④に入る想定である。 ２点目について，本宣言については，「第６次宇都宮市総合計画改定基本計画（後期基本計画)」と「第２次宮っこ子育ち・子育て応援プラン」の間に位置するような，大きな理念として制定する想定であり，本宣言の中に個別具体な文言を入れることは難しいと考えるが，最大限，障がい児・者への理解や配慮なども踏まえた表現ができるよう検討させていただきたい。 また，障がい児・者に関する個別具体の文言については，本宣言の理念を踏まえた子育て施策の羅針盤である「応援プラン」の改定を来年度に予定しているため，来年度，改定に係る協議を進める中で，改めて障がい児・者への理解や配慮などについて，新たな事業の企画立案等も含め，本会議委員の皆様からもご意見をいただきたい。 ３点目について，市内の特別支援学校にも周知を行う予定である。委員ご指摘の通り，一人ひとりの特性が異なる中では，学校の先生からアンケートの趣旨や回答方法について，丁寧にお伝えいただくことを想定しており，現時点では，それが最大限であると考えている。
委員	アンケートでは，「生きづらさ」について回答できる項目はあるか。酷い虐待など，児童相談所に行かなければならないような事例だけではなく，家庭内の親子不和など，見えにくいが子どもが生きづらさを感じている部分

	にフォーカスが当たっているのか確認したい。生きづらさにもフォーカスが当たっている場合，「共感」という視点が漏れているのではないか。 　また，大人用のアンケートの「体罰」という言葉の定義が非常に曖昧であると感じる。親は，子どもが自分の想定の範囲内で行動すれば怒ることは少ないが，想定以上の行動が起きた時に焦りが出てくることが多い。今回のアンケートでは，大人の「行為」にはフォーカスが当たっているが，子どもの行動に対して「十分に理解できているか」，「不安に感じることはあるか」などの前提条件の確認が無いため，集計結果が想定とズレてしまう可能性があるのではないか。 　また，親が体罰をしてしまう根底にどういった考えや思いがあるのか，という認知が，子ども側としてもできていない可能性があるのではないか。そのような親子間での共有がなされているかどうか，という内容がアンケート項目あれば，判断がしやすくなるため，検討いただきたい。
事務局	１点目について，子どもの「生きづらさ」ついては，子ども用アンケートの６番目の項目にある「困り感」の問で答えを引き出せればと考えている。この問の回答の選択肢として，事務局として考え得るものを列挙しているが，この選択肢に当てはまらない子どものために「その他」の自由記述欄を設けている。委員ご指摘の生きづらさには，様々なものがあると思うので子どもが感じていることを自由に書いてもらい，その声を拾っていければと考えている。 　２つ目，３つ目について，「共感」，親子間の「共有」の視点も踏まえ，アンケートの内容を精査させていただく。
委員	障がい児・者について，応援プランの改定の際に反映していくとの説明があったが，最終的に計画にぶら下がるのであれば，本宣言にその内容を分かりやすく入れてほしい。 　また，不登校の子たちについても意見が集約できるようにしてほしい。障がいがあっても学校に通えている子どももいれば，障がいがあって学校に通えない子どももいる。学校に通えないのには，多種多様な理由がある。アンケートは，学校を通して実施するとのことだが，学校に通えている大多数の意見だけを反映することにならないよう，少数の意見を確実に吸い上げる形で実施していただきたい。学校で苦しい想いをしている子どもたちが，社会問題になっていることを踏まえ，数の多少にかかわらず子どもたちの意見を蔑ろにすることのない手立てを考えていただきたい。 　また，アンケートの「体罰」に係るものとして，「しつけのために」という文言があるが，親はしつけのために仕方なく体罰をしている，と子どもが誤った認識を持ってしまう可能性があるため，この文言は不要であると考

	える。 　また，アンケートの「困り感」について，その子自身をとらえ，その子自身に関することが選択肢として最初に来るべきだと考える。 　また，本宣言のステークホルダーに「医療」や「児童福祉」が抜けているのではないか。
事務局	本宣言については，子どもたちを守り・育てるという趣旨で制定するため，様々な状況にある子どもの声や意見をできるだけ吸い上げながら，進めていきたいと考えている。 　また，アンケートのしつけに係る文言については，資料をお配りした後に，事務局としても修正が必要だと考えていた部分でもあるので，委員ご指摘の通り削除させていただく。それ以外についても，ご指摘を踏まえ検討させていただく。
委員	本宣言に盛り込むべき視点について，「格差」という視点があってもいいのではないか。金銭的に苦しい状況にある方などは，子どもにやってあげたいと思ってもやってあげられない状況にあると考える。親の収入や家庭の状況にかかわらず，支援が受けられるというような視点があるとよい。 　また，アンケートについて，子どもの権利に関する認知度と，権利が守られているかどうかの事実関係のために作られたような印象を受ける。本当に子どもの意見が聞きたいのであれば，「困り感」のところで，「その他」で回答させるのではなく，「宇都宮市は皆さんの未来を真剣に考えています。現在，皆さんに足りないことはなんでしょうか。宇都宮市としてできることは何でしょうか。」というような質問を大きく載せた方が良いのではないか。 　また，親の様々な状況を知るためにも，子どもにしてあげたいと思っているけどさせられないことや，子どもの要望に応えられないような状況に関すること，また，なぜそれは応えられないのか，金銭的なものなのかなどを盛り込んだ内容とし，その場限りのアンケートにならないようにしてほしい。
事務局	１つ目について，「格差」の視点は分類③の子育て支援に含まれるものと考える。子どもがいる家庭への支援の中に，経済的な貧困や関係性の貧困などに対する支援が含まれている。重要な視点であると考えるので，「格差」の視点についてもしっかりと踏まえながら進めていきたい。 　２つ目について，子ども用のアンケートに「周囲の大人にどんなことをして欲しいか」という設問を設けた。周囲の大人には当然に市も含まれているという認識である。

	３つ目について，委員ご提案の内容について参考にさせていただきながら検討させていただく。
委員	他都市でもそうだと思うが，このような宣言を出す際に，内容が抽象化しすぎていて，宇都宮市としてどうなりたいのか，あるべき姿はどういったものなのかということが見えにくくなってしまうことが多いので，誰にでも分かるような形で表現してほしい。宣言というと，どうしても表現が固くなってしまう印象があるが，固くなりすぎてしまうと，子どもたちから見て「これは自分たちのために行われているけれど，何が書いてあるのか分からない」ということになり，折角の良い取り組みが勿体ない結果となってしまう。ぜひとも，子どもが十分に理解できる内容としてほしい。 また，子どもを守り・育てるという視点においては，地域との関わりが大切だと考える。地域というと，一番身近なものは自治会になると思うが，自治会の活動を高齢の方が多く担っており，大変ありがたいことであると感じているが，高齢の方と子育て世代の子育て観に違いがあることや，昔と今とで社会情勢が大きく異なっていることもあるため，様々な世代の子育て観を得ながら，地域で子どもを育てる仕組みを作っていただけたらありがたいと思う。実際に子どもを育てていく際に，地域と関わりたいけれど，気軽に挨拶できるかと言われると，知らない人に挨拶するのも難しい。そういったことも，守り育てるという仕組みの１つとして検討してほしい。
事務局	１つ目について，本市のあるべき姿については，「地域社会が一体となって子どもを守り・育てる」ということになる。この目的を実現するため，本宣言を出来るだけ多くの方に認識・共有していただく必要があるため，大人から子どもまで皆さんに分かりやすい表現にしていきたい。自治体によっては，子どもに関する内容を「条例」として制定しているところもある。条例では堅苦しい文章になってしまい，地域の皆さんに共通認識や共有してもらうことが難しくなるため，本市としては，多くの方に分かりやすく共有してほしいという想いから宣言として制定することとした。 ２つ目について，本宣言策定後にどこまで地域の皆さんに浸透させられるかが肝だと考えている。宣言の制定で終わらないようにしていくため，庁内の部局横断的に連携を図り，広く周知し，宇都宮市全体で同じ方向を向いて子育てを支援していける社会を作っていきたい。
委員	子どもたちの中には，自分のことを自分で選択できる子どももいれば，選択できない子どももいる。自分が恵まれた環境で育てられているという中でも，自分がされて嫌なことを選択できるかというと，周囲に流されて選択できない子どももいる。それが当たり前のことであり，自分が他人と少し違

	うと気付けないということもあると思うため，選択できる子を育てるということも含めて考えていただけるとありがたい。
委員	県内には約４，５００人の不登校生がおり，そのうち宇都宮市には約２，０００人いる。私の感覚的には，その中で，不登校でありながら，学びの機会を享受できていない子どもたちが１，０００人以上いるのではないか。本宣言を制定するからには，今後，そういった子どもも含め，すべての子どもへの個別具体的な策を考えていただきたい。宣言制定後でも構わないので検討してほしい。
事務局	本市としては，宣言を策定するだけでなく，宣言の目的を実現するために，必要な施策・事業を実行していくことが必要だと考えている。現在，宣言の検討と並行して，庁内横断的な組織を立ち上げ，今後取り組んでいくべき施策・事業の検討を開始しているところであり，宣言の制定とリンクさせながら進めていきたい。
委員	本宣言が子どもに関する包括的な内容のものとなると理解している。子育てを家庭だけに任せるのではなく，関係機関や地域も含め社会全体で子どもを守り・育てることが大切だと考えており，市民の皆さんにも，その重要性を理解してもらう必要がある。しかしながら，守り・育てるということがどういうことなのかは，なかなか伝わりにくいと思う。守るとは，一体何を守るのか，育てるとは，どういった子どもたちの育ちなのかを明確かつ具体的にし，市民の皆さん，地域の皆さんに分かってもらえるようなものにしていただきたい。
委員	アンケートだけでなく，子どもたちから直接意見を聞く機会があるとのことだが，そういった場で発言できる子どもは多くない。自分の想いや悩みを言葉にできない子どもが圧倒的多数であり，そういった子どもたちや親をサポートする仕組みをぜひ考えていただきたい。子育て支援を行っている団体の力を借りて，子どもの意見を吸い上げていただきたい。
会長	他に，質問・意見等はないか。 （質問・意見等なし）
会長	本議題について，了承いただけるか。
委員	了承。

	３　その他
会長	質問・意見等はあるか。
	（質問・意見等なし）
	４　閉会
事務局	以上で，第１回宇都宮市子ども・子育て会議を閉会する。
	以上